

◆ 新宿都税事務所長賞 ◆

「東京都の魅力の向上」

新宿区立落合中学校 第三学年 廣瀬 有実

私たち国民にとって身近な税。中学生にはあまり実感のわからない言葉でもあるが、買い物をするときに支払う消費税や、学校の机や椅子、教科書、建物などにも税金が使われている。このことを知り、私は税金のことをとても身近に感じた。また、街全体で捉えてみると道路整備事業費や社会資本総合整備事業費というように、公共事業関係にも税金は使われている。私たちが生活していく上でなくてはならないものを税金でつくっていると知り、納得した。話は変わるが、私は五月下旬に修学旅行で京都・奈良へと訪れた。ふるくから伝わる建造物に圧倒されつつ、見慣れない街を散策していった。そして私は違和感を覚えた。心なしか街がすっきりしていて建造物も見えやすく、まとまっているような気がした。「なぜだろう？」という疑問を残しつつ修学旅行を終え、東京に帰ってきた。そして、私はその疑問がわかった。電柱が地上にあるかないか、という差だったのだ。そういえば、社会の授業でも習ったことだなと振り返った。京都は無電柱化が進まれており、東京はまだ進んでいる地域がかなり少ないということがわかった。無電柱化のメリットとして挙げられるものは、「良好な都市景観の創出」だけでなく、「都市防災機能の強化」や「安全で快適な歩行空間の確保」もあるそうだ。確かに、ポーッとしていたら電柱に頭をぶつけてしまったなどの事故がなくなったり、幅もとれて歩きやすくなるかもしれない。また、もう一つの防災について、もし地震などの災害がおきたときに電柱が倒壊してライフラインの供給がなくなることや道路閉塞がおこることを防ぐために地下にうめることは良いことだと思う。より復興のスピードが速まるはずだ。このような三つの観点で旅行者の東京に対する感想に変化をもたらすのではないかと私は考える。なにより景観がよくなる。景観がよくなれば東京に来たいと思う人々の数も増え、最終的には活性化や経済の向上につながり、メリットが大きい。費用はかかるが、その分の上記のメリットと比べると経済効果や都民の生活を踏まえて、地下に電柱をうめるべきなのではないかと思う。都の歳入にはほとんどを税金が占めている。税金はもとを言えば都民のお金である。なので、都民の要望に応えたりするべきなのではないのだろうか。都民の要望を要約するとおそらく「経済のうるおい」だと考える。経済がうるおうと都民の暮らしもうるおうからだ。そのためには観光客を呼ぶなどをしなければならない。東京の魅力をさらに引き出すために景観をもっとよくするべきだ。なので、私は都民からの税金を使って無電柱化への取組の強化を求めたい。